

第8節 出土蘇民将来札の検討

中野 麻理子

1. はじめに

疫病から身を守るための呪符である蘇民将来札は、現在もなお三重県度会郡を中心とした志摩や南伊勢地域において、正月の門飾りとしてよく掲げられている。小稿ではこの蘇民将来札を取り上げ、遺跡から出土した蘇民将来札の集成を行うとともに、玉櫛遺跡で出土した蘇民将来札について若干の検討を加えてみたい。

2. 蘇民将来伝承と研究

文献・古記録に伝わる「蘇民将来」伝承の中で、管見において最古と考えられるものは『備後国風土記』の逸文である。その概略は次の通りである。武塔神が旅の途中に日が暮れたため二人の兄弟に一宿一飯を頼んだところ、弟の巨旦将来は富裕にもかかわらず断わり、兄の蘇民将来は貧しいながらも歓待した。武塔神は、疎略に扱った巨旦将来を討って蘇民将来一家を救い、「後世に疫気があれば、蘇民将来の子孫といって茅の輪を腰に着ければ難から免れられるであろう」と言ったというものである。

蘇民将来については、民俗学や国文学、文献史学、考古学など多方面から研究がすすめられている。これまでの考古学における蘇民将来の研究史をまとめてみたい。

箱山貴太郎氏は、現在も信濃国分寺で配布されている蘇民将来符について、その製作法において厳格な制限があるものの、符の総角部分は比較的变化があり時代の変遷に伴い推移したと述べている¹⁾。倉澤正幸氏は、信濃国分寺の蘇民将来符や遺跡から出土した蘇民将来札・符の検討から、板状呪符木簡（蘇民将来札）から角柱状護符（蘇民将来符）を経て現在の形状へ至るという時代的・形態的変遷を明らかにし²⁾、嶋谷和彦氏は出土蘇民将来札・符を全国的視野から捉え、その集成をはかるとともに出土地が兵庫県より東の地域に限定されるという分布の偏在性を指摘した³⁾。

また、地域的視点から出土蘇民将来札の検討も試みられている。水野正好氏は、西ノ辻遺跡出土の蘇民将来札は石切劔箭神社から頒布されたものと推測している⁴⁾。井上伸一氏や秋山浩三氏は、河内国河内郡の蘇民将来札出土遺跡と今もなおこの地域に存在する歴代組の関係から中世陰陽師集団の存在を傍証した。また文献史料の援用によって集団的特殊性が古代まで遡及する可能性を示唆している⁵⁾。

3. 出土蘇民将来札について

著者が集成した63点の出土蘇民将来札（表11）から把握できることを簡潔に述べたい。蘇民将来札の内容は「子孫」系と「住宅」系の二種類に大別でき、これに加えて呪句・呪図・梵字の種字などが記されているものなど多様なあり方が認められる。「蘇民将来…」の文言のみの札は、13世紀以前の遺物と共伴することが多く、「蘇民将来…」に呪句・呪図・梵字の種字などが組み合わせられて内容が複雑になる札は、14世紀以降に増加する傾向にある。また呪図が記された札は、三重県以東の札に確認できるという地域差が認められる。札の形態は、短冊形や先の尖った劔先形・切り込みがある形・穴が開けられたものなどに分類でき、出土例や民俗例などから立てかける・突き刺す・打ち付ける・ぶら下げるなどの使用法が推測できる。また、蘇民将来札は井戸や溝など水に関わる遺構から見つかるケースが多い。

これらの札は、出土状況から呪符の効力が無くなった時点で水辺に廃棄されたものと推測できる。

4. 玉櫛遺跡の蘇民将来札

次に、玉櫛遺跡で見つかった蘇民将来札の地域的性格についてふれてみたい。なお、紙幅の都合により出土状況や形態的な特徴は割愛した。本文をご参照いただきたい。

玉櫛遺跡より約2km北側の茨木市元町には、茨木神社が鎮座している。茨木神社の創建時期は明らかではないが、宝徳元（1449）年の棟札が確認されていることから⁶⁾、少なくともこの時期まで遡ることは確実である。元文元（1736）年に記された『茨木神社文書』「神事祭礼之事」には、祭礼として湯立・里神楽・翁渡りの式・清祓の式があげられおり、この清祓の式は、現在も行われている蘇民将来伝承にちなんだ「茅の輪くぐり」の神事のことを指している。また本殿北側には、式内社の天石門別神社があり、牛頭天王が祀られている。中世の摂津地域では、『延喜式』の神社名がほとんど残らず牛頭天王を祭神とした神社が多数存在したことが文献などから指摘されている。推測の域を出さないが、この現象は中世後半のこの地域において戦乱が続いたことなどから、ことのほか牛頭天王への信仰が盛んだったことを示すのであろうか。または当該地域に進攻した織田信長の神社破壊行為に対し、信長の出身地尾張にある津島神社と同じ祭神牛頭天王社を仮に祀ることで逃れようとした自衛策の結果とも考えられる。いずれにしても玉櫛遺跡の蘇民将来札は、中世における牛頭天王信仰に基づいて作成・配布された可能性が推測できる。

慶長8（1603）年2月、陰陽道を家業とする安倍晴明の子孫土御門家が、後陽成天皇の勅を奉じて天曹地府祭を執行した。この時、摂河の陰陽師たちが「例ニ依り摂州・河州民、具官トシテ参仕」した記録がある⁷⁾。その後の寛永10（1643）年に、摂津国嶋下郡鳥飼村・茨木町大字茨木・嶋上郡高槻町上田部・岩手村大字古曽部などの摂河地域の12ヶ村に住む陰陽師たちで歴代組が組織された⁸⁾。この歴代組陰陽師たちは朝廷の儀式に奉仕するだけでなく、卜占などによって吉凶禍福を説く陰陽道を中世以前から民間に普及させていたことは十分想定できる。玉櫛遺跡に最も近い茨木町の歴代組陰陽師は、中世までは遡らないとされているが、玉櫛遺跡出土の蘇民将来札と在地陰陽師の関わりは否めないのである。

5. おわりに

これまで、出土蘇民将来札を概観するとともに玉櫛遺跡出土の蘇民将来札の地域性について若干の検討を加えた。

遺跡出土の蘇民将来札は、墨書内容が13世紀以降に複雑化していく傾向を見出し、札の形態や民俗例からいくつかの使用法を推測した。多くの蘇民将来札が水に関わる遺構から出土する点から、札の効力が無くなったため水辺に廃棄して浄化を計った結果と推測した。

次に玉櫛遺跡出土の蘇民将来札について、中世後半における摂津地域の情勢下から牛頭天王信仰が盛んになり、茨木神社を始めとする牛頭天王社によって作成・頒布されたものと推測した。さらに、この地域の陰陽師の存在から、在玉櫛遺跡出土の蘇民将来札は在地陰陽師による加担の可能性を想定した。

今後は出土蘇民将来札のより個別具体的な検討と地域的比較などを検討していきたい。

小稿をまとめるにあたり下記の方々から多くの御指導・御教示・御協力を賜りました。末筆ながら御芳名を記して深く感謝の意を表します。

小野亜由美・海邊博史・駒井正明・鈴木雅美・村上紀夫・渡辺 昇（50音順・敬称略）

註

- 1 箱山貴太郎「蘇民将来考」(『信濃』第4巻第1号 1952)
- 2 倉澤正幸「蘇民将来符の形態的変遷について」(『千曲-郷土の研究-』第94号 1997)
- 3 嶋谷和彦「民間信仰の考古学」(『季刊考古学』59号 1997)
- 4 水野正好「鬼神と人とその動き-招福除災のまじなひに-」(『文化財学報』第2集 奈良大学文学部文化財学科 1986)
- 5 井上伸一「河内国河内郡における牛頭天王信仰とその奉祠集団」(『歴史の広場』第4号 2001) / 秋山浩三「21世紀に遡る陰陽師集団の祭祀-河内額田陰陽道「歴代組」-鎮宅靈符社祭祀次第-」(『大阪文化財研究』21号 2002)
- 6 『茨木市史』(1969年)
- 7 額田歴代組編史委員会『陰陽道と額田歴代組』(1957)
- 8 滝川政次郎「陰陽道と枚岡」(『枚岡市史』第1巻 本編 1966)

<表11引用文献>

- 9 鹿島町教育委員会『鉢形地区条里遺跡発掘調査報告書』(1990年)
- 10 木簡研究第13号 (1991年)
- 11 木簡研究第23号 (2001年)
- 12 白根市教育委員会『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』(1983年)
- 13 木簡研究第7号 (1985年)
- 14 木簡研究第15号 (1993年)
- 15 新発田市教育委員会『新潟県埋蔵文化財だより』No.6 (1990年)
- 16 木簡研究第12号 (1990年)
- 17 吉川町教育委員会『寺町遺跡第三次発掘調査報告書』(1995年)
- 18 木簡研究第18号 (1996年)
- 19 木簡研究第20号 (1998年)
- 20 焼津市教育委員会『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報VI』(1984年)
- 21 木簡研究第6号 (1984年)
- 22 木簡研究第22号 (2000年)

表11 出土蘇民将来札一覧表

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	
六条遺跡	六条遺跡	六条遺跡	六条遺跡	大物遺跡	猪名庄遺跡	森北町遺跡	安食南遺跡	砂入遺跡	砂入遺跡	兵庫 長曾根遺跡	観音寺遺跡 2次	竜華寺遺跡 2次	植附遺跡 2次	鬼虎川遺跡 26次	鬼虎川遺跡 26次	鬼虎川遺跡 25次	西ノ辻遺跡 33次	西ノ辻遺跡 19次	西ノ辻遺跡 10次	西ノ辻遺跡 9次	山之内遺跡	玉柳遺跡	玉柳遺跡	豊嶋郡条里遺跡	豊嶋郡条里遺跡	上津島遺跡 5次	小曾根遺跡 15次	小曾根遺跡 15次	小曾根遺跡 7次	大阪 長岡京跡 688次		
柱穴1	柱穴1	柱穴1			井戸7	自然河川	井戸	洪水砂内	洪水砂内	井戸1	井戸1	溝状遺構	土壇3	井戸1	井戸4	井戸4	井戸4	井戸29	井戸5	井戸	井戸	溝			遺物包含層	遺物包含層	土坑2 (井戸?)	井戸1	井戸1	土壇	溝	
「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	「蘇民将来公子孫宅也」	
(17.5)×3.6×0.4	(18.0)×3.9×0.4	(18.1)×3.4×0.4	(66.0)×7.0×0.8	14.7×3.1×0.2	20.1×3.9×0.6	(12.0)×3.4×0.4	15.2×3.4×0.5	(11.6)×2.3×0.4	(28.0)×3.6×0.4	16.5×2.1×0.2	16.2×(1.7)×0.2	13.8×1.8×0.2	14.3×3.2×0.2	17.2×2.1×0.3	12.0×(2.5)×0.4	12.3×3.5×0.4	(18.3)×4.0×0.4	11.2×2.1×0.3	11.8×3.3×0.2	14.3×3.1×0.3	17.7×1.7×0.2	(16.7)×3.5×0.4	(10.6)×3.0×0.6	9.0×2.3×0.55	(17.2)×5.1×0.6	75.9×5.1×0.8	14.5×3.0×0.3	14.5×3.8×0.3	17.0×3.2×0.3	(17.2)×2.4×0.6	2.7×1.3×0.2	
一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一四世紀	一四世紀	一三世紀	一五世紀	一三世紀	一三世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一四世紀	一三世紀	一五世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀	一三世紀
			47	45	16	43	43	25	25	18	37	39	14	34	34	36	25	13	13	25	10			10	10	31	16	16	16	29	11	

- 23 四日市市教育委員会『赤堀城跡』（四日市市埋蔵文化財調査報告 16 1986年）
- 24 三重県埋蔵文化財センター『ヒキタ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』（1992年）
- 25 木簡研究第16号（1994年）
- 26 三重県埋蔵文化財センター『伊勢寺遺跡』（1991年）
- 27 三重県埋蔵文化財センター『内垣外遺跡発掘調査報告－多気郡多気町相鹿瀬所在－』（1997年）
- 28 岡本広義「壬生寺境内遺跡出土の蘇民将来札」（『元興寺文化財研究』38 1991年）
- 29 研究第4号（1982年）
- 30 豊中市教育委員会『小曽根遺跡第15次調査現地説明会資料』（1989年）
- 31 上津島遺跡調査団・豊中市教育委員会『上津島遺跡 第5次発掘調査報告』（1997年）
- 32 松本啓子「山之内遺跡のまじない札」（『葦火』33（財）大阪市文化財協会 1991年）
- 33 （財）東大阪市文化財協会・東大阪市教育委員会『西ノ辻遺跡第9次発掘調査報告』（1996年）
- 34 大阪府教育委員会『鬼虎川遺跡第26次・西ノ辻18～20次調査概要報告』（1995年）
- 35 （財）東大阪市文化財協会『西ノ辻遺跡第33次発掘調査報告』（1995年）
- 36 （財）東大阪市文化財協会『鬼虎川遺跡第25次発掘調査報告』（1998年）
- 37 木簡研究第8号（1986年）
- 38 （財）東大阪市文化財協会『東大阪市文化財協会概報集1996年度（1）』（1997年）
- 39 （財）八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅻ 竜華寺遺跡第二次調査」（『（財）八尾市文化財調査研究会報告34』1994年）
- 40 木簡研究第14号（1992年）
- 41 大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター『松原市観音寺遺跡第二次発掘調査概要』（1986年）
- 42 堺市教育委員会『長曽根遺跡発掘調査概要報告堺市文化財調査概要報告第58冊』（1996年）
- 43 木簡研究第19号（1997年）
- 44 大手前女子大学史学科研究室文化財調査室『いのの』No.2（1990年）
- 45 木簡研究第21号（1999年）
- 46 尼崎市教育委員会『猪名庄遺跡』（1999年）
- 47 尼崎市教育委員会『大物遺跡発掘調査速報展』（1995年）

No.	遺跡名	出土遺構	釈文	(縦×幅×厚さ)	年代
1	茨城 鉢形地区米里遺跡	遺物包含層	「▽□薩民得來子孫也」 「急々如律令」(タカ)	5.9×2.0×0.4	一五世紀
2	神奈川 北条康時・時頼邸	溝6	「薩民得來子孫家也急□律令」 「☆次起」薩民得來子孫「十ヤケ」	24.5×4.7×0.7	四世紀
3	新潟 馬場屋敷遺跡	溝周辺	「☆次起」九々八十一「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	25.0×3.0×0.3	一三世紀
4	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	26.8×3.3×0.3	一三世紀
5	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	27.2×2.7×0.4	一三世紀
6	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	17.5×3.5×0.3	一三世紀
7	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	13.7×2.5×0.5	一三世紀
8	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	27.8×4.0×0.5	一三世紀
9	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	11.3×4.6×0.5	一三世紀
10	馬場屋敷跡跡	溝周辺	「▽☆次起」薩民得來子孫也「九々八十□」(一カ)	9.5×2.7×0.3	一三世紀
11	鞍ノ前遺跡	井戸47	「薩民得來子孫也」 「☆」	(17.1)×2.0×0.1	一四世紀
12	鞍ノ前遺跡	井戸41	「薩民得來子孫也」 「☆」	18.3×2.3×0.2	一四世紀
13	寺前遺跡	水路	「薩民得來子孫也」 「☆」	17.2×2.5×0.2	一三世紀
14	寺前遺跡	水路	「薩民得來子孫也」 「☆」	20.8×20.2×0.2	一三世紀
15	寺町遺跡3次	土坑	「薩民得來子孫也」 「☆」	6.0×4.5×0.4	中世
16	老木杉遺跡	河川	「薩民得來子孫也」 「☆」	9.1×4.3×0.3	中世
17	鎌廻遺跡	河川	「薩民得來子孫也」 「☆」	9.0×4.2×0.3	中世
18	鎌廻遺跡	河川	「薩民得來子孫也」 「☆」	7.6×1.8×0.1	一五世紀
19	小川城遺跡	城郭堀	「▽□天形星皇口薩民得來子孫也」 「地鎮鬼除八鬼神」	21.2×5.5×0.3	一五世紀
20	小川城遺跡	城郭堀	「▽□天形星皇口薩民得來子孫也」 「地鎮鬼除八鬼神」	7.7×1.6×0.2	一五世紀
21	小川城遺跡	井戸	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	(29.7)×4.1×0.3	一五世紀
22	道場田遺跡	土壇	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	8.7×2.1×0.5	一六世紀
23	赤堀城跡1次	溝	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	(7.3)×2.9×0.5	一五世紀
24	伊勢寺遺跡	井戸2	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	(9.0)×2.7×0.2	一五世紀
25	阿形遺跡	井戸110	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	17.0×6.1×0.3	一六世紀
26	内垣外遺跡	井戸32	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	22.6×3.6×0.6	特定不可
27	六大遺跡	溝	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	8.7×3.0×0.3	中世
28	壬生寺境内遺跡	溝	「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「 「▽☆次起」薩民得來子孫也「	(9.2)×1.5×0.2	九世紀